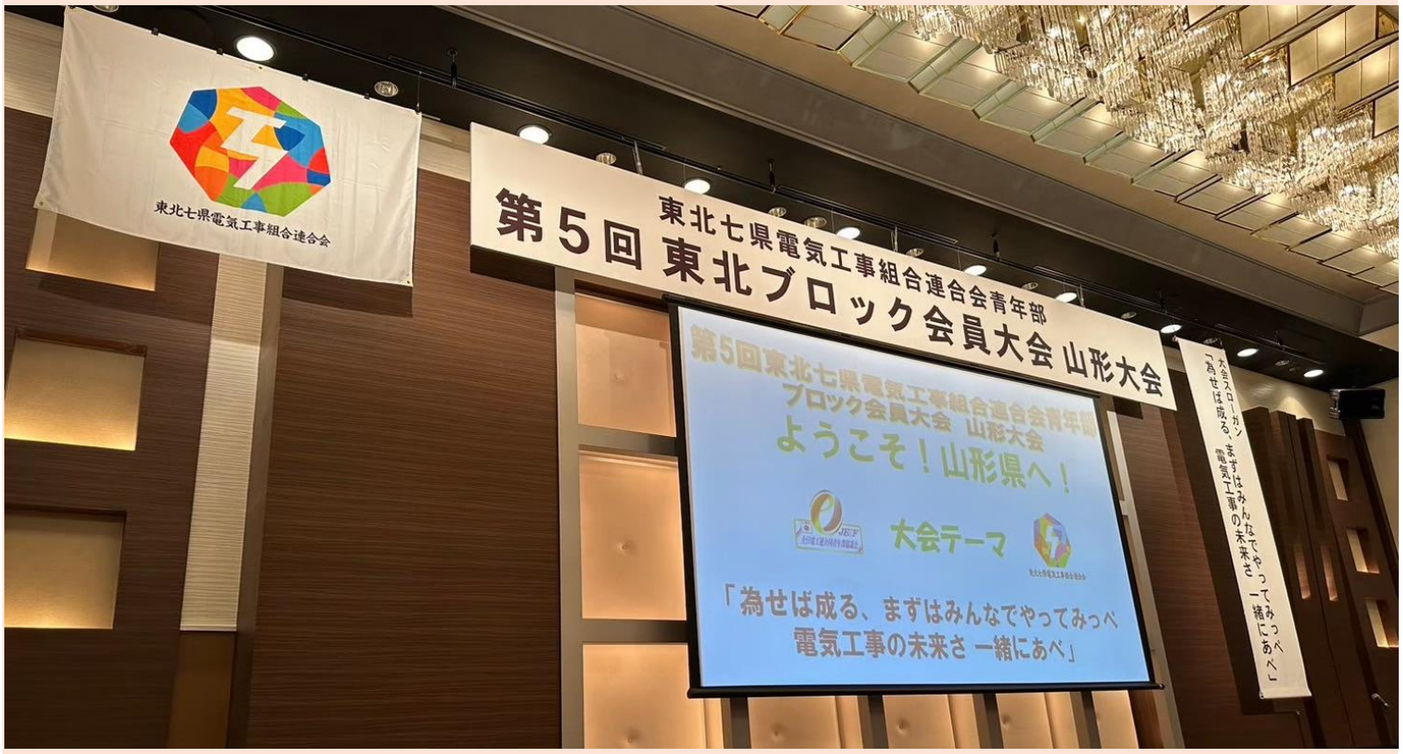
2024年
9月号

Big Dipper NEWS

東北ブロック
会員大会

東北七県電気工事組合連合会　青年部です。皆さま、どうぞ宜しくお願い致します！！

今回は７月２７日に開催されました東北ブロック会員大会山形大会についてです！



２０２４年７月２７日、山形県山形市にて第５回東北七県青年部ブロック会員大会山形大会が開催されました。これまで綿密に準備を重ねてきた山形県電気工事工業組合青年部の皆様、そして東北七県電気工事組合連合会青年部の同士と共についにこの日を迎えました。

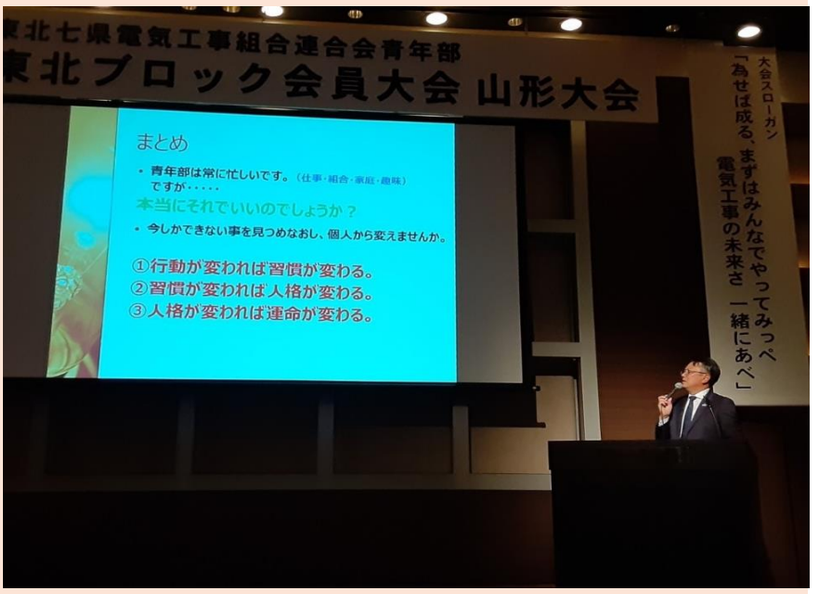
前日の決起集会にてお酒の勢いがよかったのか、午前中に精細を欠く各県工組青年部会長、部長を尻目に、粛々と準備をしていく山形県工組の面々。

とても頼もしく感じました。

午前中のリハーサルも終わり、いざ本番。
北は青森から南は新潟まで広い広い東北より山形まで集まっていただいた志を同じくする仲間と共に、まずは全日電工連青年部会長であり、東北七県電気工事組合連合会前会長である齊藤卓也様よりご講演をいただきました。

齊藤会長の思い、そして熱いメッセージは参加された会員の皆様に強く残り、「自分が明日からできることはなんだろう」「社員さんやお客様に信頼される技術者になるには？」という問いが刻まれたと感じています。

齊藤会長の講演ののち、各テーブルにて意見交換会を開催しました。



全日電工連青年部役員ならびに役員の皆様を迎え、『電気工事業が、一生の職業として選ばれるために必要なことは？』というテーマのもと、活発な意見が交わされました。

働き方改革が叫ばれる中、地方の電気工事業の現状はどうなっているのか？
残業や土日出勤をなくすことができず、人材不足のなか、どうやって社員を採用していけばいいのか？
会社のサポート体制、そして雰囲気は社員の満足いくものになっているのか？
なによりも未来に希望を持てる会社に、そして団体になっているのか・・・など

それぞれの会員がそれぞれの思いを伝え合い、対話を重ねていきました。

電気工事会社も多種多様です。専門工事とは言え、電圧の大きな設備を扱う高圧受電設備の工事や屋外工事を専門に行う会社もあれば、テレビや電話、通信などのいわゆる弱電設備を扱う会社もあります。従業員がおらず家族で仕事をしている会社もあれば、たくさんの技術者を在籍させ全国各地を飛び回っている会社もあります。

そして、そのどれもが課題を抱えており、明日の飯のタネをさがしています。同業者であってもお互いに腹を割り、価値観と経験と感情をくみ取って相手の意見に耳を傾け、自身を省みることのできる内容の濃い意見交換でした。

その後山形電気工事工業組合の會津理事長より総評をいただき、改めて青年部が電気工事組合そして電気工事業界を支え、前へ進めていくことのできる力とネットワークを兼ね備えていることを実感できました。

意見交換会のあとには式典が開催されました。式典には齊藤会長、會津理事長に加え、東北七県電気工事組合連合会理事長の平野喜嗣様もご出席され、岩田会長挨拶、齊藤直前会長の表彰などを経て、その後各県青年部の事業発表が行われました。

各県とも自分たちの課題や強みに向き合った事業を実施しており、自分の県や支部に持ちかえってやってみたい、という声も多くありました。事業発表後に名刺交換をしながらお互いの支部や会社での取り組みを話し合い、ブラッシュアップしている様子はブロック会員大会の醍醐味です。

このような姿を来られなかった会員の皆様や会社の社員の皆様にも見てもらえれば、青年部はさらに活性化していくのではないでしょうか。

各県事業発表のあとは次回ブロック会員大会開催地である秋田県のPR。秋田県工組会長の高橋翔太君より工夫と趣向をこらした秋田県のプレゼンが行われました。ブロック会員大会は七県を２年に１度ずつまわって開催されるので、その土地の空気やおいしいもの、そして地元の人の温かさも感じることができます。２年後の秋田大会も楽しみになってきました。

そしていよ待ちに待った懇親会。ふたたび岩田会長の挨拶のあと、山形舞子の優美な舞が会場を魅了します。

山形商工会議所のホームページより抜粋しておりますが、山形県を南北に流れる最上川は、紅花商人の昔から京・大阪との交易を盛んにし、その文化を山形県にもたらしました。

山形には長い歴史を刻んできた素晴らしい伝統芸能が、今も数多く伝承されており、なかでも山形芸妓は、当地を代表する伝統的な芸能を保持し、その優れた技能から全国的にも高い評価をえております。しかし、最盛期の大正から昭和初期には150名を数えた山形芸妓も、時代の変遷とともに減少し、現在では10数名となり深刻な後継者不足に悩まされております。

そのようななか平成8年2月に山形商工会議所や山形市観光協会が中心となり、山形市内企業の出資によりまして、伝統芸能後継者育成のため「山形伝統芸能振興株式会社-愛称:やまがた紅の会」が設立されました。
そして、現在は、試験で選ばれた若いやまがた舞子が伝統芸能後継者として、踊りや唄・三味線などの特訓を受けながらお座敷に出て活躍しております。と記されておりました。

その後は各県から集められた日本酒、また山形の地酒を飲みながら山形の郷土料理に舌鼓を打ち、口もなめらかになっていきました。各県の会員が入り交じり楽しくお酒を酌み交わす様子を見ると、主催として意見を出し合ってきたことが報われたと感じると同時に、食事もせずにおもてなしをする山形県工組会員の皆様のご苦労に頭が下がる思いです。

その後、エンタメとして芸人の「ですよ。」さんが登場。謝罪の仕方について一緒にレクチャーを受けたあと１０分程度で颯爽と帰るかっこよさ。個人的にですよ。さんが大好きだったので、とても興奮しました。できればひとつしかないあのネタをやってほしかったなあ・・・

また、アトラクションとして各県対抗の山形のうまいもの早食い対決が行われました。茶豆や玉こんにゃくなどを目の前に、それぞれの会員がそれぞれの思いを胸に挑んでいました。

最後に中締めを行い懇親会も無事終了。多くの仲間たちと絆を深め、各県の同志たちは飲みなおし語り合うため山形の夜の街に消えていくのでした・・・

個人的な感想ですが、山形ブロック会員大会は成功に終わったと確信しています。
多くの気づき、そして絆が生まれ、また新しいアイデアがイノベーションに変わっていく会員の皆様もいたのではないでしょうか？

準備が大変と思われていますが、きっと開催したメリットはそれ以上に大きなものです。会員の組合に対する理解度が深まり、会員が地元の方々と触れ合うことで電気工事組合が認知されるとともに開催地域が活性化されます。そして今回の大会で得られた学びが東北地区それぞれの地域に持ち替えられ、社業と電気工事組合のさらなる発展につながることを願っています。